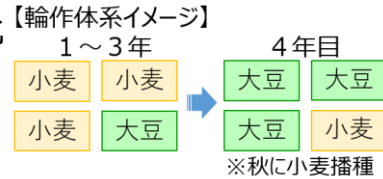


# 本宮市青田地区

## 1 想定するモデルとしての姿、モデルとする事項

- 大規模水稲栽培との組み合わせによる小麦、大豆の収量・品質の安定化
- 大豆、小麦の輪作体系（3年に1回程度ほ場を交換）の確立を図る。



## 2 生産概要（中心的な担い手の概要）

- 【作付面積】水稲：25ha、小麦：0.7ha、大豆：1.8ha（R3）
- 水稲大規模経営体のため、作付時期を拡大するため乾田直播に試験的に取り組んでいる。（現在：水稲は移植栽培と湛水直播を組み合わせている）
- 水稲の作付面積が徐々に拡大。（R1：25.0ha → R5：29.0ha）

## 3 取組のポイント（モデルとして構築する取組）

### <需要に応じた生産を徹底>

- 実需者の要望を踏まえ令和3年に大豆の品種を「タチナガハ」から「里のほほえみ」に切り替えた。小麦の品種についても、「きぬあずま」から「さとのそら」への切り替えを検討している。

### <団地化し適期作業を徹底することで輪作体系の確立>

- 水系別に水稲から大豆・小麦に転換し、団地化するエリアを検討中。
  - 令和5年度は麦跡の大豆晩播に対応するため狭畦栽培を実施した。
- 《農業機械》トラクタ34ps 1台、汎用播種機 2条、ドリルシーダー 1台  
汎用コンバイン 1台、乾燥機 1台  
大豆適期播種のため田植機 8条を導入（R2）  
小麦適期播種のためコンバイン 7条を導入（R3）



## 4 取組成果

### <小麦の収量向上>

- 小麦の適期播種により単収が71%増加  
(単収：150kg/10a（R4）→ 257kg/10a（R5）)

## 5 課題（6年度のポイント）

### <大豆>

- ドリルシーダーを活用した播種により耕耘2回を1回に削減し、適期播種を目指す。
- 難防除雑草（アレチウリ）対策として、効果の高い土壌処理剤の選択、適期のベンタゾン液剤処理の指導により、手取り除草回数の削減を目指す。
- 高温年の場合、灌水実施を指導し収量の確保を目指す。

### <小麦>

- 水稲の品種構成や収穫適期について指導し、引き続き小麦の適期播種を目指す。